

武蔵野市農業振興基本計画見直し検討委員会（第3回）
会議録要旨

日 時：令和3年10月11日（月曜日）午後1時59分から4時22分
場 所：武蔵野市役所東棟6階601会議室
出席委員：淵野雄二郎委員長、榎本一宏副委員長、田中誠委員、後藤幸治委員
伊藤輝夫委員、森田茂紀委員、田中宏茂委員、中村健二委員
田川良太委員
欠席委員：岩本千絵委員
事務局：吉崎産業振興課長、産業振興課農政係職員

次第

- (1) 計画改定案の検討について
- (2) 事務連絡等

1 計画改定案の検討について

●事前に各委員から頂戴した意見の内容について、事務局より説明を行った。

●農家戸数と農地面積について

（事務局）目標数値について、委員に説明いただきたい。

（委員）前回数値を載せるかという議論があったが、5年後、10年後に検証を行うのであれば、目標値は設定しておいたほうが良いと思い、意見を述べた。

（事務局）他の委員からも同様の意見を賜っているので、どのように記載するか検討いただきたい。

（委員）提案に異論はないが、その目標値がどのような趣旨で決まったものかを付しておいたほうが良い。

（委員長）委員の総意で目標値は明確に記載をすることにする。

●農業所得について

（事務局）農業所得については記載しなくても良いという意見と基本は500万円ではないかという意見があったが、いかがか。

（副委員長）農業所得は個人の経営の問題なので、記載しなくても良いのではという意見だった。500万円という目標を持っている農家もいるので、そういった意見を伝えた。

（委員）市内農家全員が300万円を目指さなければならないといったことではなく、例として30a以上の農地を所有しているのであれば300万円以上を目指し、その実現を図られるのが望ましいといった記載にすると良いと思う。行政が目標を押し付けているように見られないよう配慮されているのが前提。

（委員）所得については、1つの目安としてここを目標にすることもできるといった記載に変えたほうが良い。

(課長) 一例ということがわかるように記載を変更していきたい。

(委員) 市が育成したいと思っているメッセージが伝わると良い。

●農産物の供給情報(PR)について

(委員) 市民向けアンケート内で、吉祥寺で野菜を購入する場所がないという意見があった。JAが供給している場所もあるので、市と連携して情報を提供できるよう、PRを強化してほしい。

(事務局) 他の委員からも同様の意見を賜っているので、計画に反映させていきたい。

●全体について

(委員) 相続税や担い手の問題は大きいので、2.5%の農地を守るためにも、市が農地を買い取る等の方策を具体的に検討していただきたい。

(委員) アンケート結果や委員会における議論を経て今回の改定ができたということを明記すれば、取組みが市民の方にも伝わるのではないかと。

(事務局) 本計画策定における考え方と手法を明記する予定。

●武蔵野市農業の将来像における数値について

(事務局) 農家戸数が前回の計画からは9戸減少、策定から見直しまでの間では6戸減少している状況だが、この数値の考え方についてご意見いただきたい。前回の目標としていたものと同程度で留める記載が良いかとは思いますが、パーセンテージを広げて現実に即した記載にするという考え方もある。

(委員長) 当初の65戸という目標から58戸と修正した場合、どう評価するか。

(委員) 10%未満に抑えるという目標値で59戸とするのはどうか。

(事務局) 59戸を目標値とするということで修正する。

農地面積も前回と比較して約12.7%減少している状況だが、今回はどのように設定するかご意見いただきたい。

(委員) 農家戸数の目標値の設定と同様、10%未満に抑えるという記載でいかがか。

(事務局) そのように修正する。

農業従事者数についても減少傾向にあるが、いかがか。

(委員) 減少要因につながりがあるので、農家戸数及び農地面積同様の考え方になると思う。

(委員) 既に10%減少している状況なので、10%の減少に留めるとなると、これ以上従事者数は減らせない。ただ元の数値からさらに10%の減少に留めるとなると約20%近く減っても良いことになってしまう。次回計画策定時には15%ぐらいに留めたと言えるようになっていたほうが良いのでは。

(委員) 例えば前計画では18%減少していたとしても、現計画の平成27年度を起点に考えて15%の減少に抑えれば169人という目標値が出てくるので、そういったことはあり得ると思う。

(委員長) 減少率を抑えるということを目標にするというのでいかがか。

(事務局) プラス5%減少に留めるという記述に修正する。

- (委員) そうなると、農家戸数についても変更する必要があるのでは。
- (委員長) 農業従事者や面積もそういう考え方で目標値を設定するという事か。
- (事務局) 数値を改めて確認した。全て15%減少に留め、農家戸数は62戸、農地面積は26.35ha、農業従事者数は169人となる。
- (課長) 平成27年度から何%減少するかを基準とし、当初は10%減少に留めるという目標としていたが、令和7年度までに15%減少に留めるという形で修正をしたいが、いかがか。
- (委員) 当初より上回った減少はあったが、今回は15%の減少に留めると積極的な目標設定にしたということがわかるようにしてほしい。

●農業経営モデルについて、意見交換を行った。

●認定農業者・都市型認定農業者について

- (事務局) 現行計画では、認定農業者比率が50%を超えることを目標としていたが、都市型認定農業者制度が開始されていなかったため、今回の見直しでは都市型も含めて66%以上と記載したが、ご意見をいただきたい。
- (委員) 認定農業者を目指すには20a、30a以上の農地がないと所得目標を達成できないという中で、武蔵野市の場合は、それ以外の担い手も大事にしていくという意味で新制度を開始したので、合計で出すのも良いと思う。ただ、66%がどこから出てきたのか明確にして、意欲的に農業をやっている人の割合を高めるという目標であることをわかるように記載をしたほうが良い。
- (委員) 66%ではなく、3分の2のほうが良いのでは。
- (事務局) 「3分の2以上を目指します」という記載に修正する。

●体験農園・農業公園について

- (事務局) 体験農園は経営手法の1つではあるが、市が推進するより農家を中心となるものなので、促すというトーンダウンした表現に改めるか、項目を削除するか、ご意見いただきたい。
- (委員) 現行計画で目標値として掲げられた経過はあるのか。行政が開設を支援していくのは難しい話であるにも関わらず、これだけ記載されているので、何か意図があったのかと考える。ただ、なかなか推進はできないので、トーンを落とした記載に修正できればと考えている。
- (委員) 他市では、市が体験農園の開設に補助金を出しているところもある。市民農園は、ニーズは高いが不安定な土地でやっているのに対し、体験農園は、農業者の経営にもプラスに働き、市民にとってもプラスに働くので、行政としては推進すべきとなった背景があるのではないかと。
- (委員) 果たして武蔵野市の農業者には望まれていることなのか、違和感もあるので、トーンダウンした形で記載できると良い。
- (委員) 逆に農業公園は市が施策を進めていくもので、体験農園とは支援の仕方が違うので、整理したほうが良い。

●生産緑地の貸借について

- (副委員長) 武蔵野市でも2件事例があるが、今後増加も見込まれ、農地を保全して

いくという意味合いでは、都市農地貸借円滑化法ができたことも新たな項目として入れるべきでは。

(事務局) 施策の基本的な考え方というページに新たに項目出しをしたが、重点施策として掲げ、目標値を設定する等の記載をしたほうが良いか、ご意見を伺いたい。

(委員) 地方では、農地の貸借もしやすく、担い手の農地集積面積の目標値を設定したりしているが、武蔵野市では貸借ができるようになったのは最近のことで、小規模農家でも続けられるよう、積極的なマッチングの支援等、踏み込んだ記載ができればと思う。行政、農業委員会、JAが連携してマッチング支援をしていくことが、農地を守るためには重要なことだと感じている。

(委員) この文章の中に、貸借円滑化法を活用した事例が何件あって、今後相談があった場合、市がJAと連携して支援を行うという記載にするのはいかがか。

(事務局) そのような形で、重点施策には掲げず、文章に入れ込むという形で修正する。

●基本構想に定める事項について、議論を行った。

2 事務連絡等〈省略〉

以上